

部活動保護者会あいさつ 平成30年5月2日（水）概要

本日は、お忙しい中を部活保護者会にお集まりくださりまして、ありがとうございます。わたくしから大きく2つほどお話をさせていただきます。

1つは、部活動の教育的価値について。2つめは、協力のお願いです。

(1) 部活動の教育的価値について6つ

(異年齢の活動／学力との関係／目的と目標／集中力／認める／連携)

(2) 協力のお願いを2つ

部活動の教育的価値1つめです。異年齢の活動であるということです。カリキュラムのなかで異年齢の活動は、特別活動の生徒会活動だけです。それ以外の授業はすべて、同年齢、同学年、そして、同じクラスで学習をします。一方、部活動は、学年を超えた異年齢の活動です。社会に出たら同年齢の活動なんてのは、ほとんどありません。これを教育に生かさない手はありません。大きな価値です。

2つ目の教育的価値は、学力との関係です。埼玉県の実験・学習状況調査の昨年度の分析結果から、学力は、授業だけでは向上しない、ということが数値的に証明されました。意欲や根気、継続する力などが学力を向上させています。がんばろう、続けようという意欲は、様々なことを通して子どもは獲得します。こうした非認知能力、忍耐や継続力、根気等が、いわゆるテストの点を挙げているということです。最近の問題は、知識を問うのではなく、知識を使って何ができるかという問題に変化しています。こうした課題を解決する学力は、授業、道徳の授業、行事、学級活動、委員会活動、部活動、様々な面で伸ばしていくものです。その大きな役割を担っているのが部活動であると認識しています。

3つ目の教育的価値は、部活動の目的と目標が明確だということです。目的は「人間づくり」人としての成長です。これを目的に、日々の活動をしています。ただし、展覧会やコンペ、あるいは大会、試合等がありますから、それも通じながら目的達成のために努力します。その展覧会入賞や試合での勝利は「目標」であって、「目的」ではありません。これを間違えてしまうかたがいらっしゃいます。目的と目標の違いをきちんと指導者や大人が確認しておくことが大切です。昨今のスポーツ界の不祥事は、社会全体に投げかけられている問題として捉え、特に幼少期、ジュニアスポーツや中学校スポーツにかかわる指導者や大人は、肝に銘じなければいけないと考えています。部活動は人づくりを目的として、勝利や入賞を目標にできる、明確な設定ができる活動であることに価値があります。

4つ目の教育的価値は、「マルチタスク」の排除です。部活動は、時間割のように細切れに様々なことを行うのとは別に、一定時間を一つのことに集中して取り組める利点があります。同時に様々なことを行うことを「マルチタスク」と呼びます。現代社会では当たり前になりつつあることですが、問題も多くあります。学校もある意味「マルチタスク」を生徒たちに課してしまっている部分もあります。同時並行的に様々な取組を行っていることです。ただし、部活動だけは、一定の時間同じことを集中して取り組める唯一のもの

です。注意欠陥や多動を促してしまうような「マルチタスク」を脱皮させる価値がありません。

5つ目の教育的価値は、生徒を認め、ほめる機会が増えることです。勝敗ではなく、一本のシュートの素晴らしさ、一球のすばらしさ、一本の面の価値等、競技のなかで、生徒個々のよさを見つけられます。これがうれしいですね。

最後に、教育的価値の6つ目です。これは、学校・家庭・地域が一体となれる教育活動であるということです。この三者の協力が一番やりやすく、一番連携を深めやすいことです。親御さん同士の関係や、地域の指導者との関係等、縦と横の関係、さらには斜めの関係も構築できます。斜めの関係とは、自分の子ども以外の同じ部員との人間関係が構築できます。これもまたすばらしいことです。とくに、子育てのことで気軽に相談できる関係が構築できます。

以上どうか、教育的価値としての、部活動をご理解いただき、本校の部活動へのご協力をお願いいたします。

大きな2つめです。保護者の皆様へのご協力のお願いです。2つの協力です。

1つ目の協力は、部活動に専門家はいません、ということです。

競技歴があるかないかで専門性を問うならば、指導者とはなんのでしょうか？ですから、指導者と競技歴は違うということを申し上げます。

顧問は指導者です。私の知り合いにも、初めて行う競技を生徒と一緒に学んで、自分も上達していく先生がいます。剣道の顧問で、顧問になって初めて竹刀を握り、初段・2段・3段と段位を取得した先生もいます。かくいう私も、競技歴はありませんでしたが、サッカー一部の顧問を6年間続けられました。こうしたことをご理解ください。

2つ目のお願いは、学校・家庭・地域への協力のお願いとして、ぜひ見学をお願いいたしますということです。ちょっと言い過ぎかもしれませんが、親が知りたいのは次の2つではないでしょうか？「今日は勝った？」「出してもらった？」ではないでしょうか？そうしたことは見ることですべてわかります。子どもに聞かなくて済みますし、たとえ、レギュラーでなくても、ジャグを運んでいたり、用具や会場の片づけをしたりしている、わが子の姿を見るのも楽しいものです。これは自分自身の経験からもよくわかりました。

さらに、見にくることで生徒相互の関係、集団の中でその子がどんな立場にいるのかが分かります。授業参観では、教員が流れをコントロールしていますから、その子の集団での立ち位置は正直見える部分が多くはありません。しかし、部活動だと、見える部分が多くあります。おちゃらけキャラなのか、リーダーなのか、いじられキャラなのか、それとも、一人ぼつんとしているのか、部活動の動きの中で見えてきます。そうした意味でも、見にくることをお願いします。

ここにいる皆さんが協力して生徒たちの健全な育成を目指してまいりましょうという。よろしくをお願いいたします。

では、最後に自慢になりますが、部活動情報はぜひ本校のサイトをご覧ください。